日　新　聞　【新聞定価1ヵ月4,037円(本体価格3,738円＋消費税299円)】1部売り(消費税込み)朝刊140円　夕刊50円　〔第3種郵便物認可〕

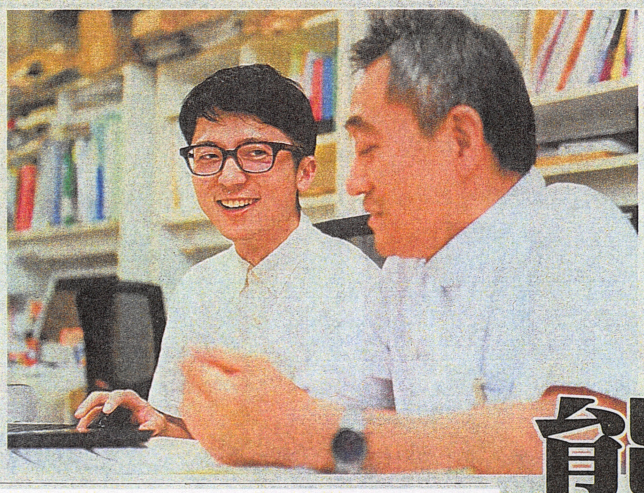
救われた命 支える側に

熊本へ

尼崎脱線で重傷 作業療法士

「災害関連死防ぎたい」

JR福知山線脱線事故（2005年4月）で両足に重傷を負った中野皓介さん(29)が、作業療法士として災害関連死を防ぐ活動に力を注いでいる。5月には熊本地震の被災地で医療チームの一員として活躍した。「自分は救われた命。今度は一人でも多くの人の役に立ちたい」と前を向いている。【大沢瑞季】



熊本地震の被災地での活動を振り返る中野皓介さん（左）と大阪医科大の冨岡正雄准教授＝大阪府高槻市で、小関勉撮影

事故に遭ったのは、大学に進み、作業療法士を目指して勉強を始めた矢先だった。大阪府豊能町の自宅から大学に向かう途中、2両目に約4時間半閉じ込められ、両足の筋肉が壊死するクラッシュ症候群と診断された。手術を受けたが、今も一部にしびれが残る。

このまま、歩けなくなるのでは――。入院中、不安にさいなまれた時、医師が支えになった。足をくすぐっては「神経が通ってる」と、明るく励ましてくれた。医療に携わる人にとって、患者とのコミュニケーションがいかに重要かを実感した。作業療法士の資格を取り、10年4月、大阪府摂津市の保健センター職員になった。以来、高齢者や病気で後遺症の残る人のリハビリを手助けしている。

災害支援の道へ背中を押したのは、事故当時、中野さんを手術した冨岡正雄・大阪医科大准教授(53)だった。冨岡さんはリハビリ医として災害関連死を防ぐ「大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）」に参加。13年から災害現場で動ける専門家を育成している。

中野さんは昨年1月、冨岡さんが講師の研修会で10年ぶりに再会し、恩人の情熱に奮い立った。その後も研修会で学び、今年5月5日から4日間、JRATの一員として熊本県宇城市へ派遣された。

避難所では、高齢者のために段ボールベッドの利用を市職員に助言。エコノミークラス症候群を防ぐための体操教室も開いた。

今後も災害があれば現場に駆け付けるつもりだ。中野さんは「大災害が起きても対応できる力をつけたい。それが自分に与えられた役割です」と話す。